

グループ名 ・代表者名	もっかい事故調 田中三彦	助成金額	100万円
連絡先など	cookie0506@tanaka.email.ne.jp		
助成のテーマ	福島第一原子力発電所の事故原因と推移過程に関する、 運転データと客観的事実にもとづく詳細検討		

## 【調査研究・研修の概要】

- ・私たち「もっかい事故調」は、「福島第一原発の各号炉で何が起きたのか」を中立的・科学的視点から、でき  
るかぎり詳細に明らかにすることを目的として調査研究をおこなっている。
- ・福島第一原発事故は、現在もさまざまなかたちで継続しており、熔融燃料（炉心デブリ）の回収や汚染水の処  
理など、手探りで方法・手段を開発しながらの対応に追われている。事故の原因・推移についても、データ不  
足や調査不能のため未解明の問題を数多く抱えている。
- ・国会事故調の作業終了後、東京電力の公表する新たな資料、データ等も対象に含めて、共同研究者とともに定  
期的に検討を継続している。これらの成果は、雑誌『科学』などへの論文発表、講演会、集会等での講演・解  
説を通じて社会的に広く公表している。

## 【調査研究・研修の経過】

- ・定例会合：各月2回程度、2015年3月末までに19回開催。
- ・2014年4月18日 院内集会「原子力規制のグローバルな状況と日本」  
「深層防護 ～How deep is deep enough?～」 講演者：佐藤暁
- ・2014年10月15日 シンポジウム「全文公開『吉田調書』から見えてきたもの」  
パネリスト：伊東良徳・上澤千尋・佐藤暁・添田孝史 司会：田中三彦
- ・2015年1月24日 もっかい事故調オープンセミナー「原発と大津波-警告を葬った人々」  
講演者：添田孝史
- ・2015年4月16～17日 ウィーンでの国際会議 1st INRAG Conference on Nuclear Risk に参加。
- ・研究成果の対外的な発表としては、『科学』2014年9月号～11月号、田中三彦「ゆがめられている  
事故原因究明の道 国会事故調は何を指摘したのか」(1)～(3) 他多数

## 【今後の展望など】

- ・私たちの調査研究は、国会事故調のワーキンググループIのメンバーが中心にすすめているが、必要に応じて  
国内外の専門家・研究者等の協力も求め、報告書は英語版も作成し、海外への発信をおこなう予定である。
- ・海外での発表の一步として、2015年4月にINRAG（国際原子力リスク評価グループ）がウィーン（オース  
トリア）で開催した「第1回 原子力リスクに関する国際会議」（NURIS 2015）に参加し、基調講演（佐藤  
暁、福島原発事故の国際的に共有されるべき真の教訓）と福島事故セッションでの発表（田中三彦、福島第一  
原発1号炉非常用復水器の地震動による破壊の可能性）をおこなった。
- ・これまでは福島第一原発1号炉の内容が中心となってきたが、福島第一原発2/3/4号炉で何が起きたのかにつ  
いても調査を始めており、随時まとめの作業をおこなっていく予定である。

会計報告書の概要（金額単位：千円）			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費・滞在費	共同研究者の国内・海外旅費	982	544	0	438
資料費	書籍など	26	0	0	26
機材・備品費	計算ソフト、CD、DVD他	86	0	0	86
会議費	会場、設備使用代	155	0	0	155
印刷費	研究会資料コピー代	176	0	0	176
協力者謝礼	講師謝礼	50	0	0	50
外部委託費	翻訳料	456	456	0	0
その他	運営経費・通信費	159	0	0	159
合 計		2,090	1,000	0	1,090

# 福島第一原子力発電所の事故原因と 推移過程に関する、運転データと 客観的事実にもとづく詳細検討(その1) 完了報告

田中三彦・もっかい事故調  
2015.7.18

私たち「もっかい事故調」は、「福島第一原発の各号炉で何が起きたのか」を中立的・科学的視点から、できるかぎり詳細に明らかにすることを目的として調査研究をおこなっている。毎月2回の会合のほか、シンポジウム・公開セミナーを開催。

## 「新潟県技術委員会」

(新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会)

田中三彦+佐藤暁が委員として活動

田中は課題別ディスカッション「課題1 地震動による重要機器の影響」で「地震と小規模LOCA」について精力的に議論を続けている。

2014年4月28日に伊東良徳が参考人として上記ディスカッションに参加。「津波とSBO」について、津波到達以前にSBO状態におちいっていることを説明。津波の到着時刻に関する東京電力の説明に無理があることを技術委員らに認めさせた。

田中三彦が主張してきた福島第一原発1号炉の原子炉建屋4階における水素爆発の可能性について、その疑いが強いと認められ、2015年2月21日に現場検証が実現。

2015年4月28日新潟県技術委員会の課題1会合でこの件の議論がおこなわれ、田中三彦による4階での水素爆発発生根拠の説明に対して、オブザーバーの産総研の緒方雄二氏は全面的に賛同。

## シンポジウム・公開セミナー等を開催

2014/04/18

院内集会  
「原子力規制のグローバルな状況と日本」  
深層防護～How deep is deep enough?～  
講演者：佐藤暁



2014/10/15

シンポジウム  
「全文公開『吉田調書』から見てきたもの」  
パネリスト：伊東良徳・上澤千尋・佐藤暁・添田孝史  
司会：田中三彦



2015/01/24

もっかい事故調オープンセミナー  
「原発と大津波—警告を葬った人々—」  
講演者：添田孝史

## 福島第一原発1号炉の原子炉建屋4階で 水素爆発が起きたと考えられる根拠

- 非常用復水器(IC)周辺の破壊状況
- 大型機器ハッチのふたが行方不明
- 雨だれ様の水滴痕
- 天井やダクトの破壊状況
- …などなど



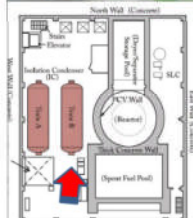
原子炉建屋4階にあるIC配管など、原子炉に直接つながる配管からの水素の漏えいが強く疑われる

## おもな成果論文(発表順)

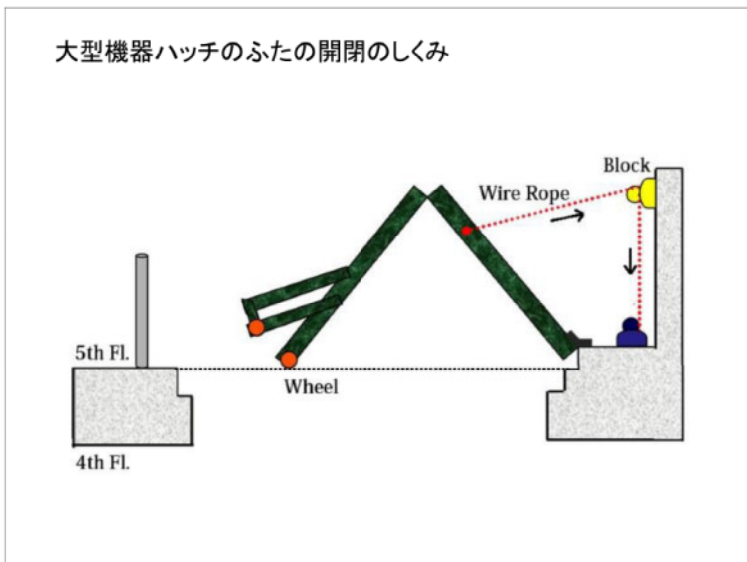
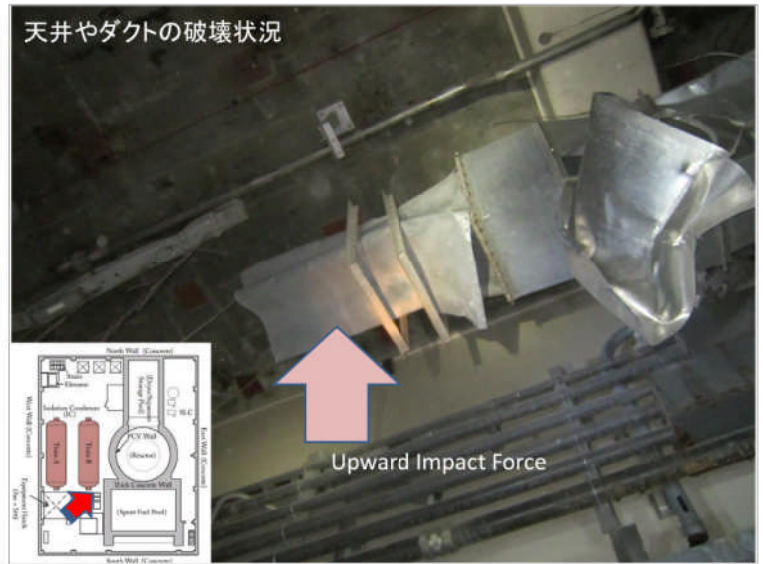
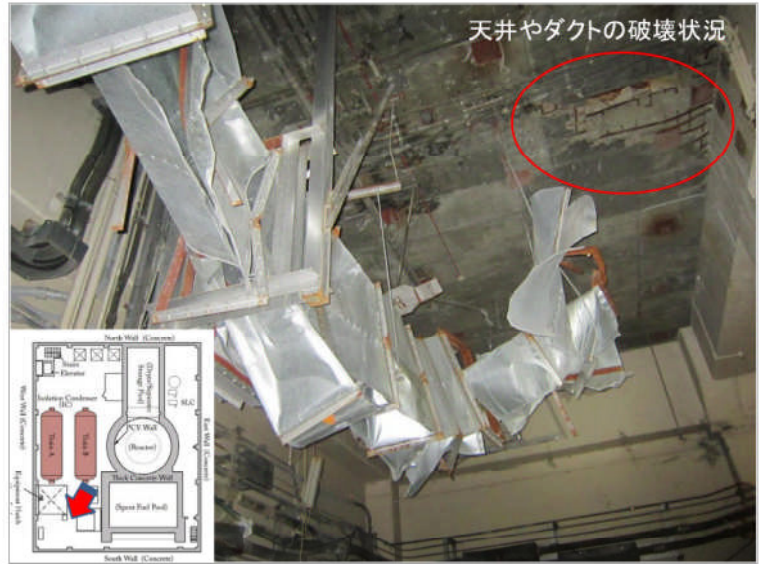
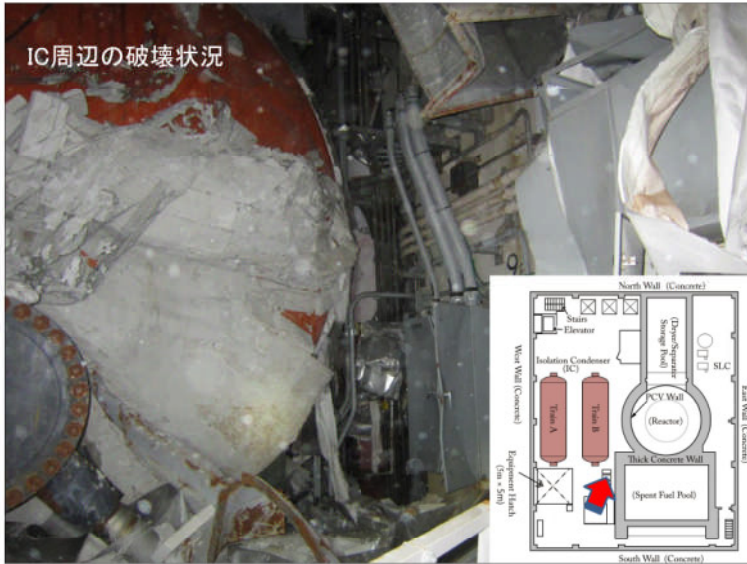
- 【原子力資料情報推進機構2014年11月号(第47号)】  
上澤千尋「福島第一原発事故の事故原因・過程についての再検討」
- 【科学】電子版2014年3月号  
伊東良徳「再読：福島原発1号炉の全交電路喪失は津波によるものではない」
- 【科学】2014年5月号  
藤井正子「核燃料サイクルの本当の話をしよう」
- 【科学】2014年8月号  
佐藤暁「原子力発電所の安全審査と再稼働(1) 不安な安全神話の再検討」
- 【科学】2014年9月号  
佐藤暁「原子力発電所の安全審査と再稼働(2) 過酷事故のナイトメアシナリオ」
- 【科学】2014年10月号  
田中三彦「ゆがめられている事故原因究明の道(1) 安全審査は何を指摘したのか」
- 【科学】2014年10月号  
佐藤暁「原子力発電所の安全審査と再稼働(3) 原子力事故に人を立ち向かわせるということ」
- 【科学】2014年11月号  
田中三彦「ゆがめられている事故原因究明の道(2) 福島原発事故分析の最新情報」
- 【科学】2014年11月号  
佐藤暁「原子力発電所の安全審査と再稼働(4) 原子力事故に人を立ち向かわせるということ(続)」
- 【科学】2014年12月号  
田中三彦「ゆがめられている事故原因究明の道(3) 原子力規制委員会[事故分析検討委員会]の発表」
- 【科学】2014年12月号  
佐藤暁「原子力規制委員会の『中間報告書』に埋め込まれた主要なポイント」
- 【科学】2015年1月号  
伊東良徳・上澤千尋・佐藤暁・添田孝史・田中三彦「『吉田調書』をめぐってシンポジウムより」
- 【科学】2015年1月号  
佐藤暁「原子力発電所の安全審査と再稼働(5) レガシー・イシューと安全神話」
- 【科学】2015年2月号  
佐藤暁「原子力発電所の安全審査と再稼働(6) たった1%の安全性」
- 【科学】2015年3月号  
佐藤暁「原子力発電所の安全審査と再稼働(7) レガシー・イシューは解決したか?」
- 【科学】2015年3月号  
添田孝史「削られた安全余裕」
- 【世界】2015年3月号  
添田孝史「解説『吉田調書』第1章 吉田所長は津波想定・対策にどうかわったか」  
【原子力資料情報推進機構2015年3月号(第49号)】
- 【科学】2015年4月号  
田中三彦「福島第一原発事故の再読：福島第一原発事故の原因と経過の再読・再読作業」
- 【科学】2015年4月号  
田中三彦「福島第一原発事故、原因究明はいつまで待たずば」
- 【科学】2015年5月号  
佐藤暁「ヤフコメにNRA委員長との対話から、原子力発電の将来」
- 【科学】2015年5月号  
石橋俊彦「第2の原発震災を招く『原子力規制委員会』の社説的な審査」
- 【科学】2015年5月号  
佐藤暁「原子力発電所の安全審査と再稼働(8) 深層防護の考えかたとフルレポートの設計」
- 【世界】2015年7月号  
上澤千尋「解説『吉田調書』第2章 全電路喪失」
- 【科学】2015年7月号  
佐藤暁「原子力発電所の安全審査と再稼働(9) 議会の決定と認可更新について」
- 【世界】2015年7月号  
佐藤暁「原子力発電所の安全審査と再稼働(10) アキレスを盗むカメ—世界と日本の原子力の位置」
- 【世界】2015年9月号  
田中三彦「解説『吉田調書』第3章 トップダウン組織はシニアアクシデンTに対処できない」



IC周辺の破壊状況







**第1回 原子カリスクに関する国際会議**

NURIS 2015  
1<sup>st</sup> INRAG Conference on Nuclear Risk  
www.nuris.org  
Vienna, Austria

2015年4月16～17日に  
ウィーン天然資源大学にて  
開かれる「第1回 原子カ  
リスクに関する国際会議」  
(NURIS 2015)」において  
2名のメンバーが発表を  
おこなった。

16 - 17 April, 2015  
1<sup>st</sup> INRAG Conference on Nuclear Risk  
**INRAG** International  
Nuclear Risk  
Assessment Group

[くわしくは→ nuris.org](http://www.nuris.org)

田中三彦  
About the Possibility of the 1F1 IC Piping Breakage  
due to the Earthquake Jolts

佐藤暁(基調講演)  
Additional Lessons Learned from Fukushima Accident

12





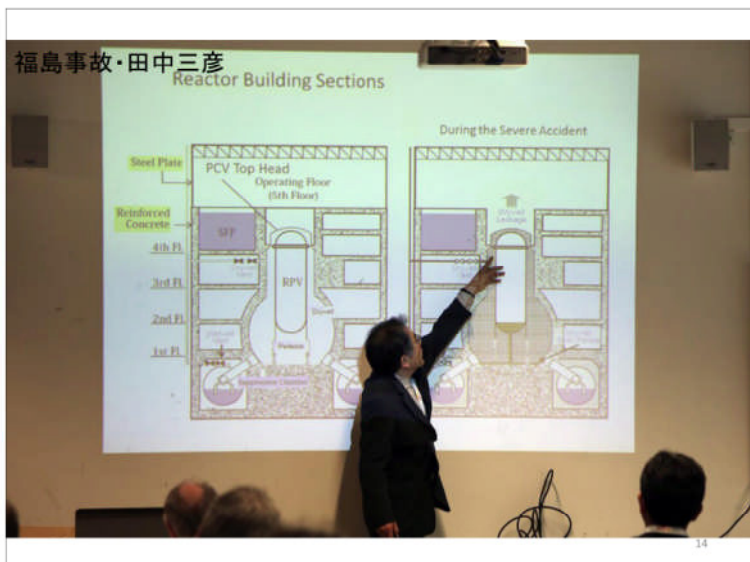
## これからの活動について(2)

新潟県技術委員会の委員をしている田中三彦と佐藤暁の活動のサポート。

技術委員会では福島第一原子力発電所事故の検証を下記の課題毎にディスカッションしている。課題1・3・6のテーマを中心に取り組んでゆく。

- (課題1) 地震動による重要機器の影響
- (課題2) 海水注入等の重大事項の意思決定
- (課題3) 東京電力の事故対応マネジメント
- (課題4) メルトダウン等の情報発信の在り方
- (課題5) 高線量下の作業
- (課題6) シビアアクシデント対策

16



## これからの活動について(3)

原子力規制委員会の「東京電力福島第一原子力発電所における事故の分析に係る検討会」(事故分析検討会)が2014年10月8日に中間報告書をまとめて、公表したが、十分な議論なく国会事故調の成果を一方的に否定した内容。

➡ 中間報告書の内容の批判的検討

この秋に公表予定のIAEAの報告書の技術的知見の元ネタの1つ

これまで1号炉を中心にすすめてきたが2・3・4号炉での事故推移についても、格納容器の破壊、水素爆発などの詳しい解明に取り組み始めており、今後はこれらに力を注いでいく予定である。

17

## これからの活動について(1)

得られた成果をテーマごとにまとめ、逐次、報告書・レポートにする。発表形態はとくにこだわらず、構築中のもっかい事故調のWEBなどを通じても発表してゆく。

テーマ

- ・地震とLOCA
- ・1号炉原子炉建屋4階での水素爆発
- ・非常用復水器について
- ・津波とSBO
- ・原子炉水位計
- ・放射能放出と原子炉内のイベント
- ・MAAP, MELCORによる解析への批判
- ・原子力規制基準をめぐる諸問題

・・・などなど。

15

## これからの活動について(4)

寄稿・議論

前述のテーマについて、雑誌などへの寄稿、WEBへの掲載のほか、新潟県技術委員会の議論に資するための検討などを、これまで通り継続して行なう。

国際シンポジウム

また、NURIS2015の会議終了後ドイツのエコ研(Oeko-Instytut)のメンバーと会合を持ち、互いに協力して活動していくことを確認。活動例として、**原発の安全基準の国際比較研究**、**福島第一原発事故に関する国際的なシンポジウム**ないしは**ワークショップ**を開催すべく検討中。

18